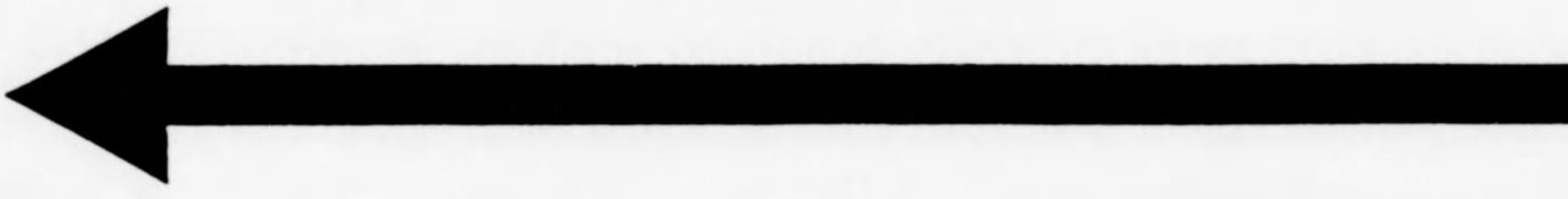


特254

641



始



冊子

641

敬神作品展覽會輯錄

石
川
縣

露光量違いの為重複撮影

本輯録は、石川縣が、敬神思想普及に關する事業として、實施せる、「敬神作品展覽會」の記録なり。

國中
青年
學校
學校
學校
生徒兒童
敬神作品展覽會

會期 昭和十七年七月七日ヨリ十二日マデ
會場 金澤市 宮市大丸百貨店

主催 石川縣
後 神院

特 254
641



國中
少年
學學
校校校

會 期 昭和十七年七月七日ヨリ十二日マデ
會 場 金澤市 宮市大丸百貨店

生徒兒童 敬神作品展覽會

主 催 石 川 縣
後 援 神 祇 院

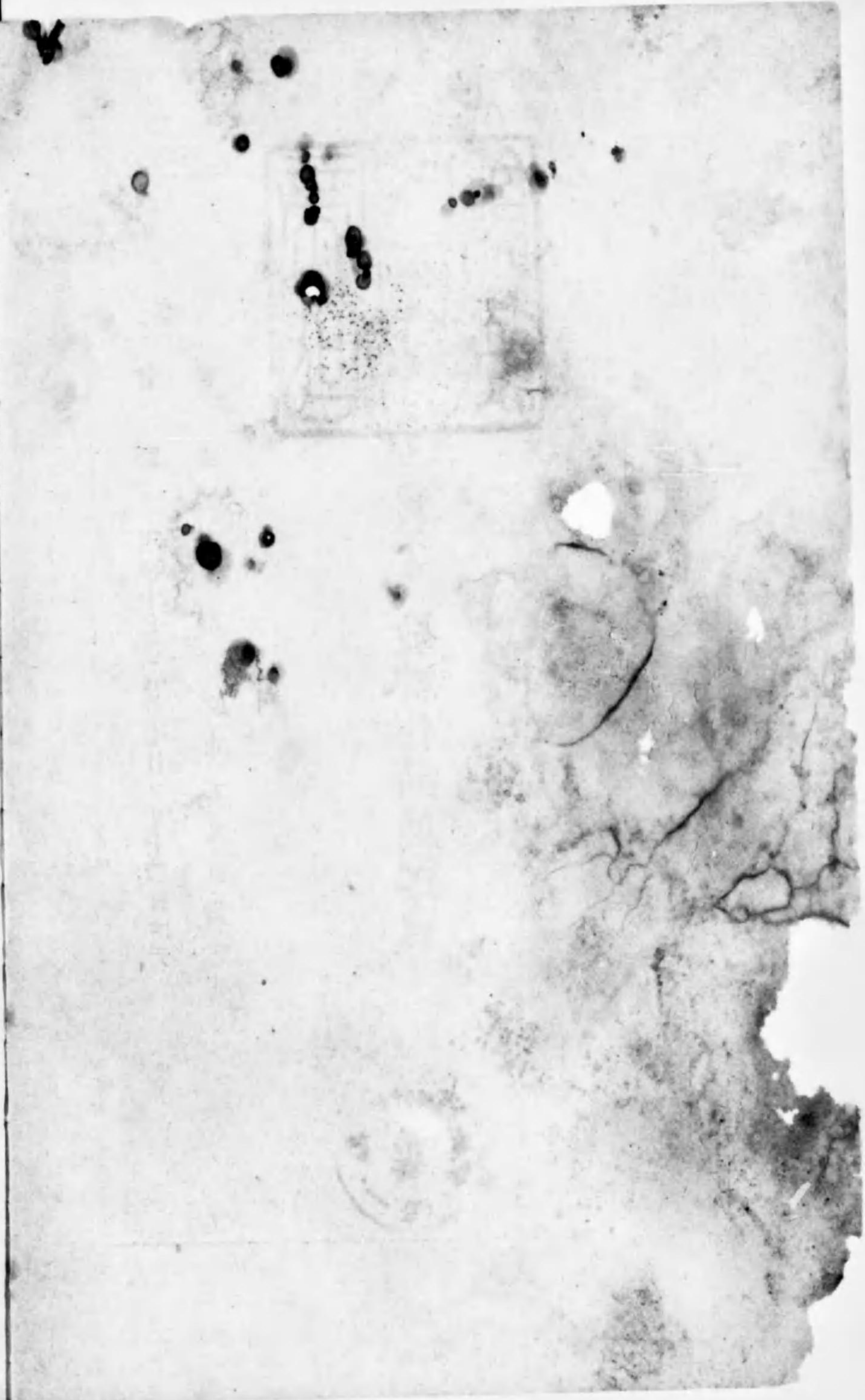


敬 神 賞



授 賞 式

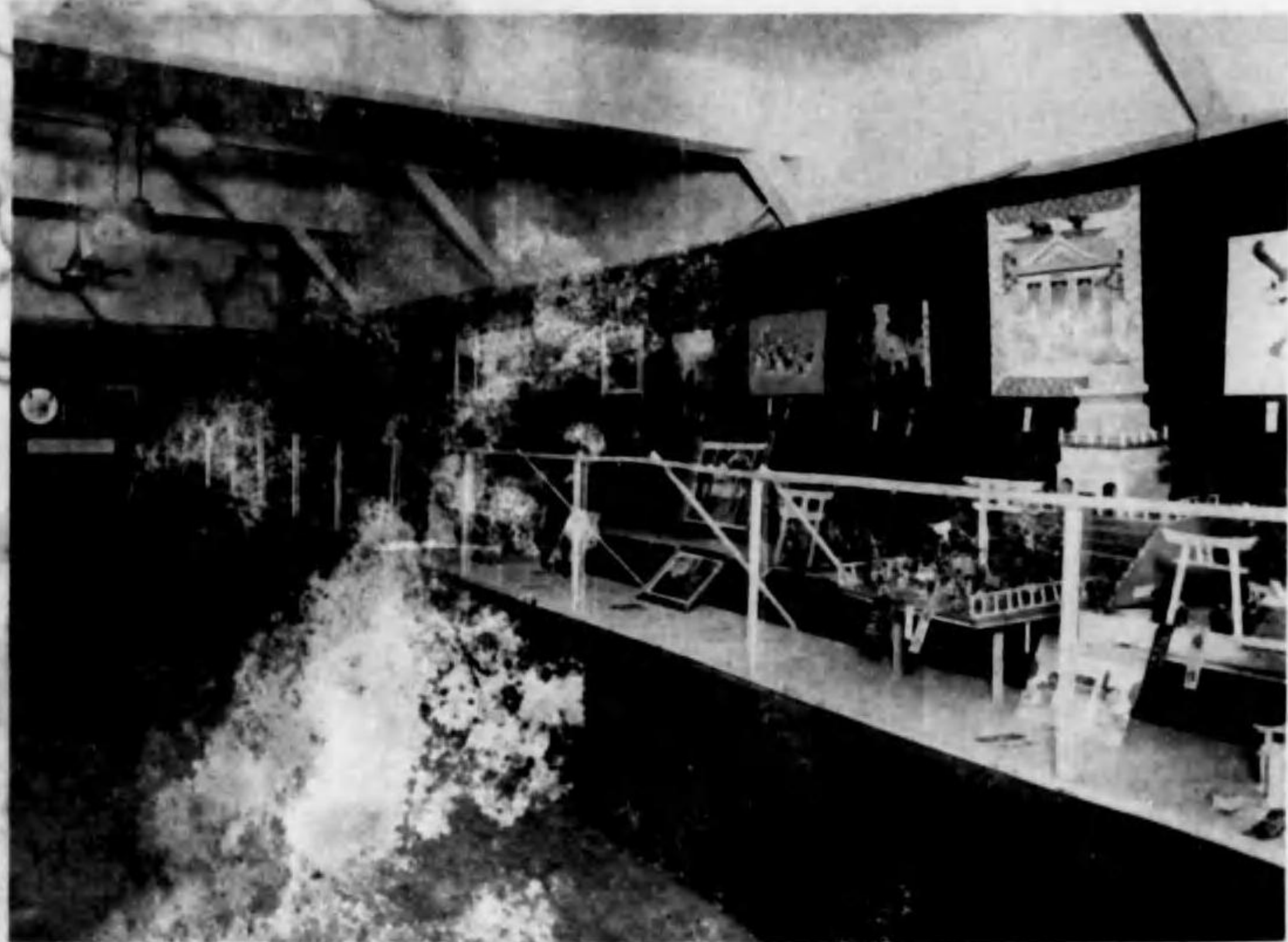
昭和十七年七月十一日 於石川縣會議堂



展 覽 會 場 其ノ一



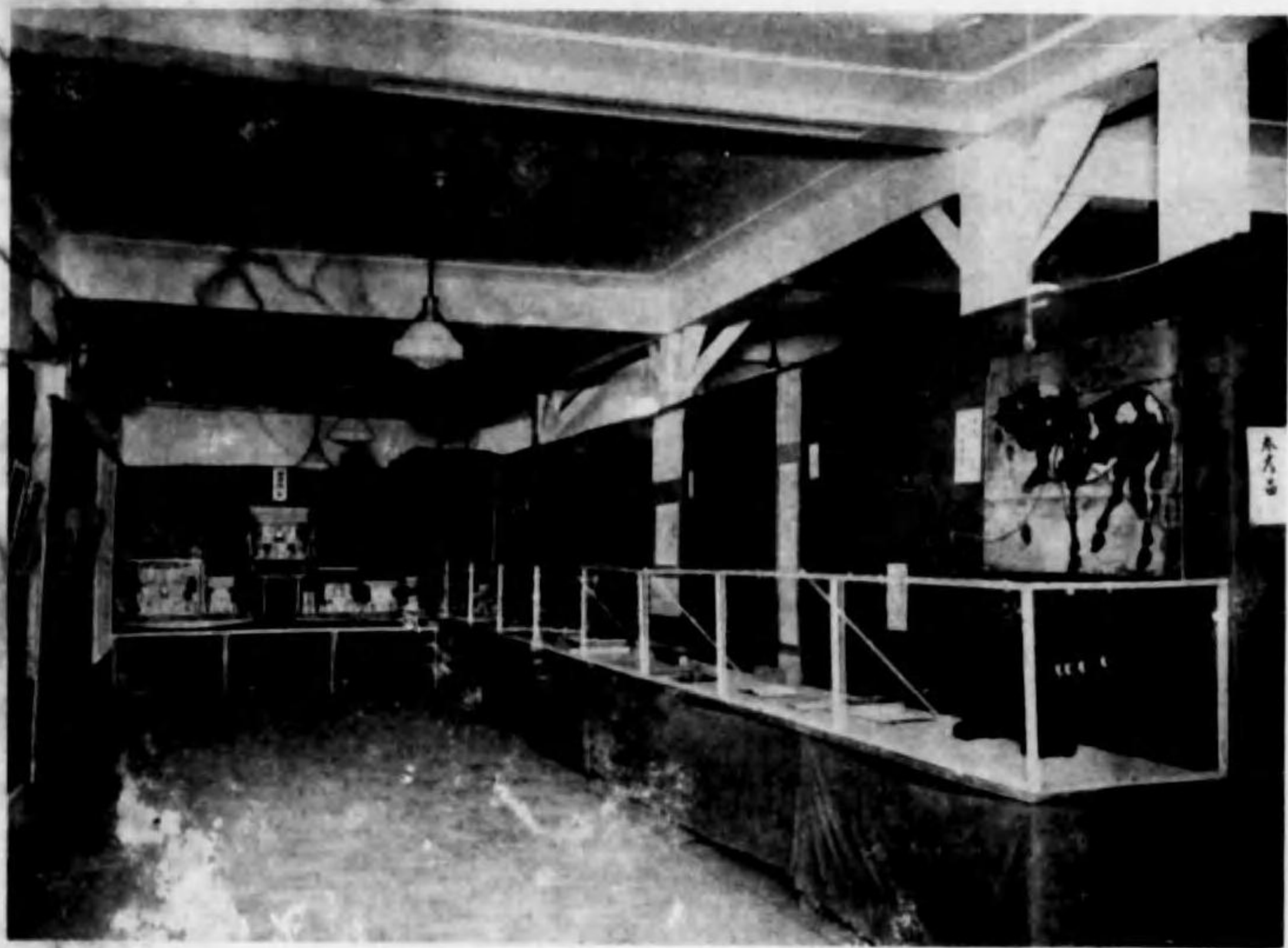
展 覽 會 場 其ノ二



展 覽 會 場 其ノ三



展 覽 會 場 其ノ四



入 選 作 品 圖 畫 秀 位

2



津田外島子
金澤第一高等女學校 第五學年
高島昭實
金澤第二中學校 第四學年



1

1. 〔社頭の遠望〕
2. 〔朝陽〕

入 選 作 品 圖 畫 秀 位

1



2



3



4



5



- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. (お 詣 り) | 石引町国民学校 第三學年 | 大 窪 節 子 |
| 2. (神前に額づく) | 長土屏国民学校 第四學年 | 橋 本 敏 夫 |
| 3. (盆 敷) | 津 幡 国民学校 第六學年 | 塚 本 昭 子 |
| 4. (おる母子) | 西濃国民学校高等科第二學年 | 伊 藤 秀 子 |
| 5. (清 掃 奉 仕) | 松ヶ枝町国民学校第四學年 | 金 山 彩 子 |

入 選 作 品 工 作 秀 位

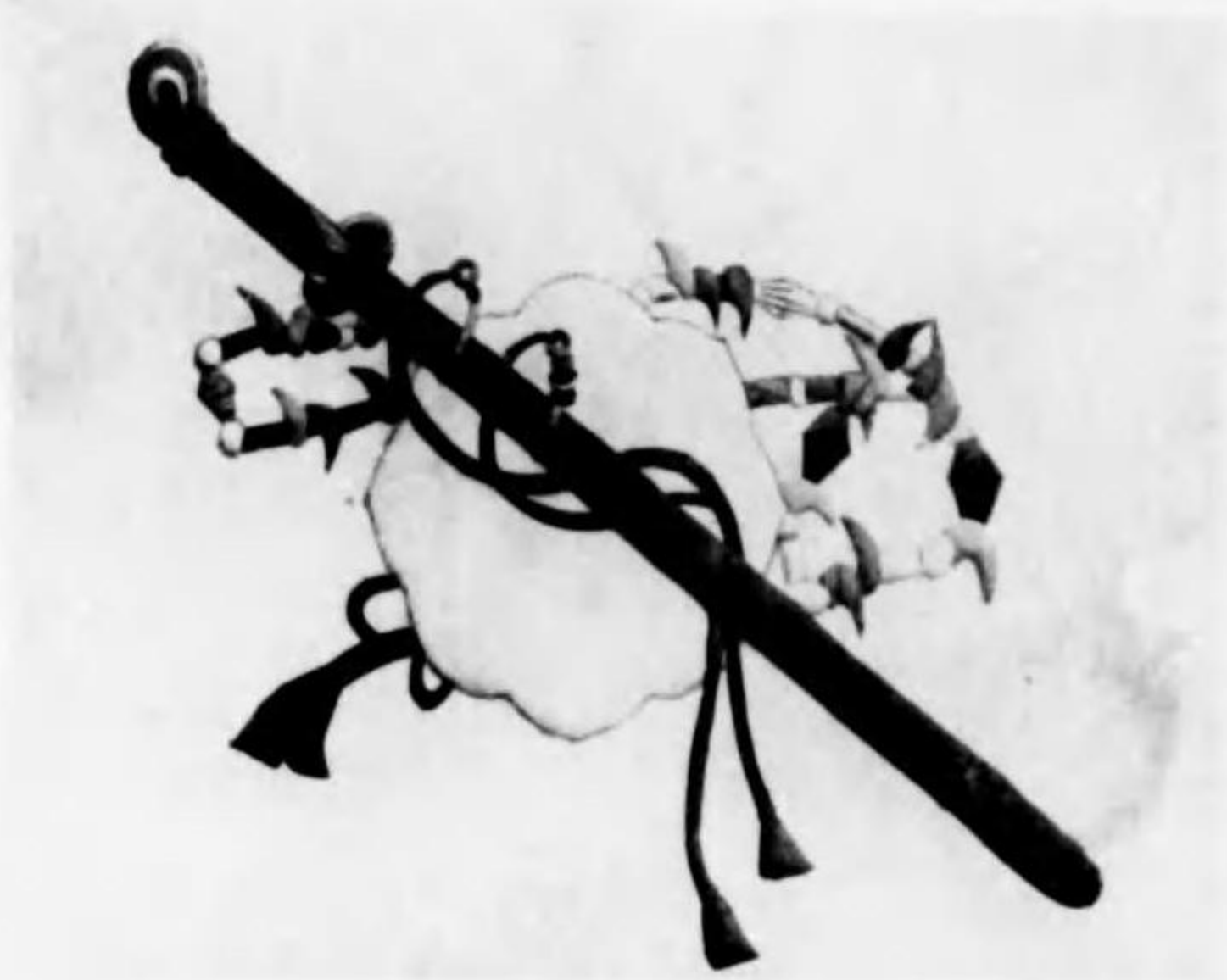
1



2

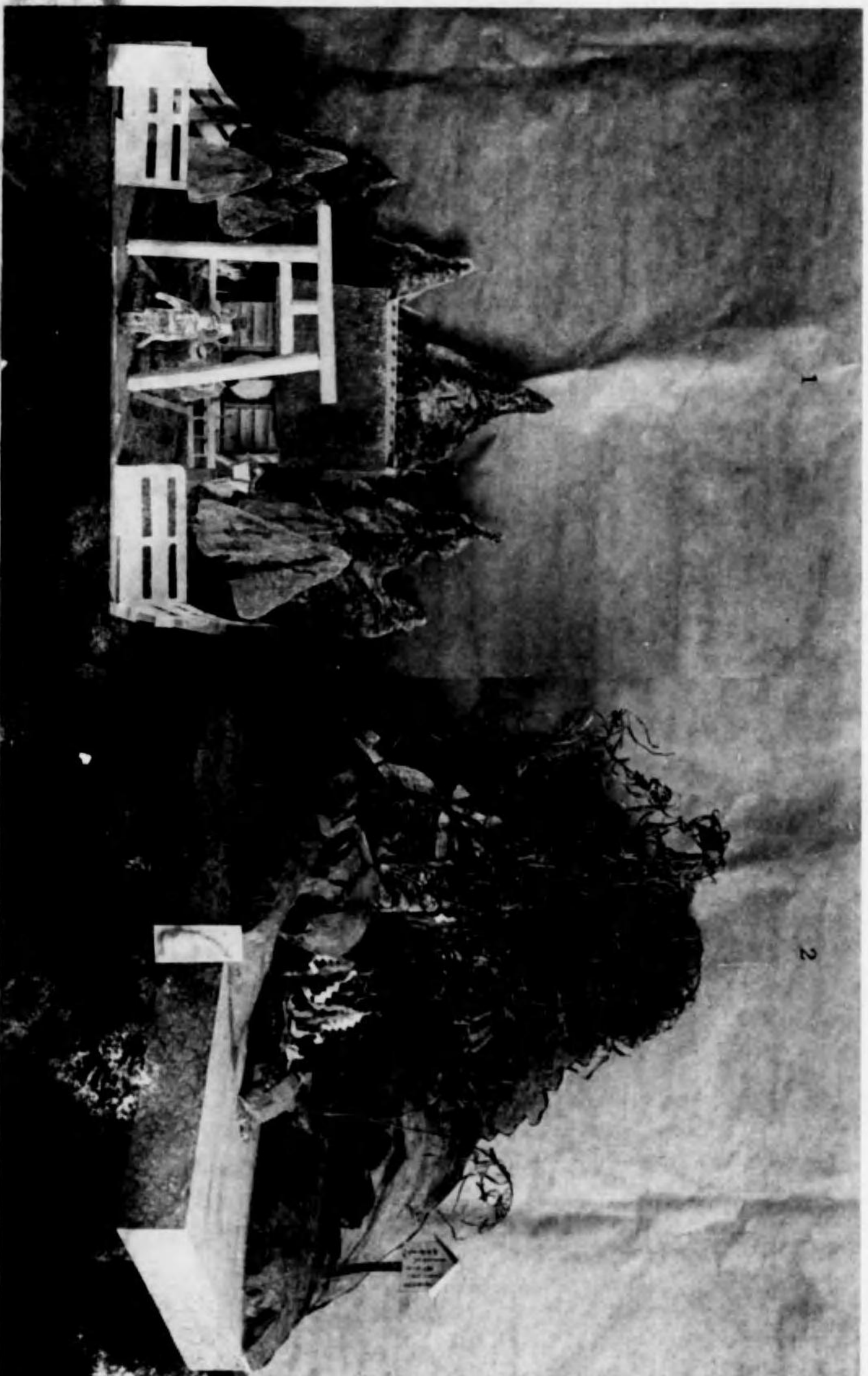


3



- 1. [慶 祝] 藤花高等女學校 第四學年合作
- 2. [海 邊 宮] 金澤第一高等女學校 第四、五學年、五名合作
- 3. [神 器] 飯田高等女學校 第三學年、四名合作

入 選 作 品 工 作 秀 位



1. (お宮)
2. (まごころ)

新整町国民学校 第三學年 木尾隆史
區城國民学校 第四學年 新井壽



展覽會趣旨

今や舉國一致天業恢弘に奉仕し益々
惟神の大道を闡明し以て大東亞戰爭
の完遂に邁進すべきの秋に際り茲に
神祇に關する作品を募集し純真なる
生徒兒童の心情に確固たる敬神愛國
の精神を扶植せしめ兼ねて其の優秀
作品を公開展示し一般敬神思想の普
及涵養に資せんとす

目次

- 一、趣旨……………一
- 一、寫真(授賞式、會場、作品)……………
- 一、作品募集要項……………二
- 一、作品應募點數……………四
- 一、審査概要……………四
- 一、入選作品點數……………六
- 一、展覽會狀況……………七
- 一、授賞式並座談會……………九
- 一、入選作品(作文、標語)……………一五
- 一、入選者名簿 附參考出品目錄……………三

○作品募集要項 (抜萃)

一、應募資格

縣下男女中等學校(含師範學校)青年學校、國民學校生徒兒童、但し個人作品の他合作品を認む。

二、作品科目

神社又は敬神に關するもの、但し選題取材はすべて隨意とし左の五科目とす。

- 作 文 (詩、和歌等を含む)
- 標 語 (敬神思想の普及涵養に資すべきもの)
- 習 字
- 圖 畫 (ポスター、圖案類を含む)
- 工 作 (女子中等學校にありては手藝)

三、作品規格

- 作 文 石川縣教育會選定用紙又は學校指定のもの
- 標 語 作文用紙を使用
- 習 字 半紙、短冊、色紙、半切(紙に限る)

426
81

圖 畫 石川縣教育會選定の大判又は小判、ポスター、圖案等は右大判の倍判、油繪はスケッチ判以上

工 作 (又は手藝) 縦、横、高さ、共に一米を超えざるもの

附 記

- 1、應募作品は返還せず。展覧會終了後學校所在地の神社に於てこれを保管するものとす、但し工作品合作品等にして特に豫め申出ありたるものに限り返還することあるべし。
- 2、作品には記名せず、裏面に番號を附し別に作品名簿を添附するものとす。

四、時期々限

募集期限 昭和十七年六月十日
入選發表 昭和十七年六月三十日

五、審 査

審査委員を依頼して各科目毎に豫選し、更に全委員の綜合審査を以て決選す。
入選作品を秀位、優位、良位の三階級に分ち、入選作品全部を展覧會に出品す。

六、表 彰

賞 狀 入選者全部に授與す。
敬神賞 秀位、優位の入選者に授與す。

○作品應募點數

受附を爲したる作品應募點數次の通り。

科目	學校別			科目別合計
	國民學校	青年學校	中等學校	
作文	六五四	九	一九二	八五五
標語	四七六	七	一一三	六〇六
習字	九〇三	一四	一八〇	一、〇九七
圖畫	一、二二七	五	二二二	一、四三九
工書	一〇〇	五	三六	一四一
學校別合計	三、三六〇	三五	七四三	四、一三八
應募校數	九一	一一	二七	一二九

○審査概要

一、審査委員

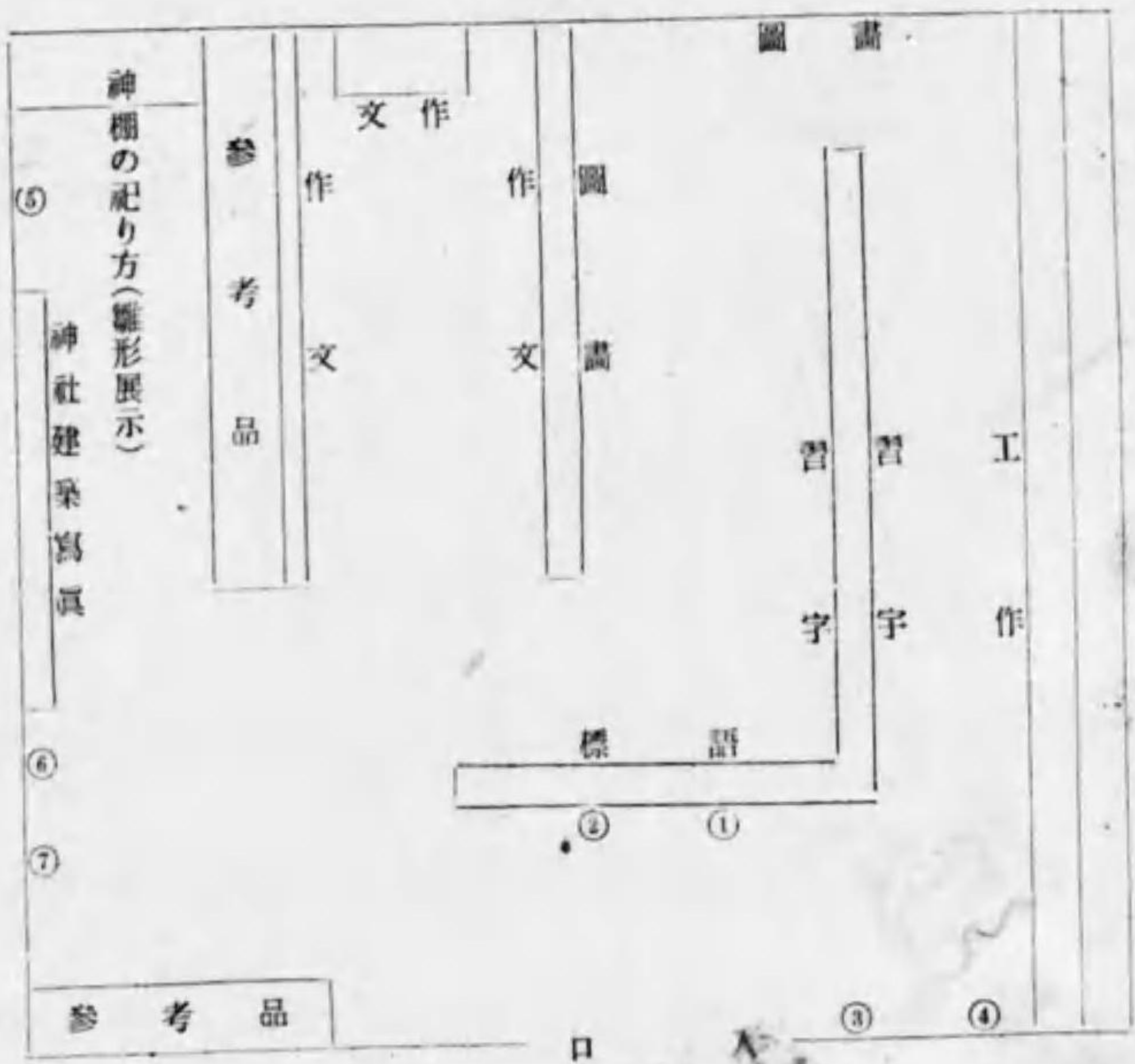
審査委員長 乾學務部長
 審査委員 山根縣社寺兵事課長 岡部縣學務課長
 川崎縣振興課長 田澤師範學校長
 津澤縣社會教育課長
 植村女子師範學校長

擔任科目

作文	田邊縣立工業學校長 片岡白山比咩神社宮司 玉井縣囑託	多々金澤女子職業學校長 加藤菅生石部神社宮司 八田縣囑託	厚見氣多神社宮司 白岩尾山神社宮司
標語	木佐貫縣社會教育主事	鍋木金澤一中教諭	春藤金澤二中教諭
圖畫	池村縣屬 山先縣視學 今井縣視學	守部祭務官補 宮崎師範教諭 宇都宮金澤一高女教諭	安井金澤一高女囑託 中濱金澤商業教諭 宮下女子師範教諭
習字	竹澤縣社會教育主事	芳賀師範教諭	
工書	尾能女子師範教諭	板谷金澤女子職業教諭	

二、審査要項

- 1、入選作品は、本展覽會の開催趣旨に合致するものたるべきこと。
- 2、作品成績の優秀なるものを採るは勿論なるも、其の著想製作の意圖等を考慮に入ること。
- 3、作品は生徒兒童自身の製作たるを要件とす、但し作品に現はれたる教授者の指導は、支障なき限度に於て之を認むること。
- 4、作品規格を尊重すべきこと、但し材料入手困難の折柄、殊更に規格を無視したるもの以外は多少の緩和を認むること。



⑦	石川縣神社員數
⑥	神社の種類
⑤	神社参拜の心得と作法
④	官國神社以下神社の祭典種類
③	神社の意義
②	石川縣下官國幣社並縣社護國神社一覽
①	趣旨

壁面揭示圖表

別に一階ウインドウに参考品を陳列し店頭高く「大日本者神國也」の大飾を掲つ

○授賞式並座談會

一、授賞式

入選者授賞式は七月十一日午後一時より縣會議事堂議場に於て、知事代理乾學務部長臨席、山根社寺兵事課長を始め各審査委員其の他來賓、受賞者側より教職員、父兄、受賞生徒兒童等多數出席のもとに舉行せられたり。宮城遙拜、開式の辭の後、先づ山根社寺兵事課長審査長に代り、審査の概要を發表して擬賞の申請をなし、(別記参照)次いで乾學務部長賞狀賞品を授與して別記の通り主催者の挨拶を述べられ、來賓總代石川縣師範學校長の祝辭、受賞者總代の謝辭あつて嚴肅裡に授賞式を終了す。

敬神賞

秀位、優位受賞者に對し賞品として敬神賞(寫眞参照)を授與せられたり。因みに右賞牌の「敬神賞」なる文字は本展覽會のために田中知事閣下が特に揮毫されたるものなり。

副賞

左記の學校に對しては神祇院より寄贈を受けたる神祇關係圖書を夫々贈呈したり。

一、秀位入選校 「明治天皇の御敬神」(神祇院發行)を贈呈

- | | | | |
|------------|-------------|------------|-------------|
| 河北郡宇ノ氣國民學校 | 河北郡津幡國民學校 | 小松市苗代國民學校 | 小松市瀧城國民學校 |
| 七尾市西湊國民學校 | 金澤市新野町國民學校 | 金澤市長土畠國民學校 | 金澤市味噌蔵町國民學校 |
| 金澤市石引町國民學校 | 金澤市松ヶ枝町國民學校 | 金澤市中村町國民學校 | 金澤第二中學校 |
| 金澤第一高等女學校 | 小松高等女學校 | 七尾高等女學校 | 飯田高等女學校 |

- 藤花高等女學校 以上十七校
- 二、秀位二點以上入選校 「明治天皇の御敬神」の外に「敬神」「神祇教育と訓練」(神祇院發行)を贈呈
 金澤市新堅町國民學校 金澤第二中學校 金澤第一高等女學校 藤花高等女學校
 以上四校
- 三、十點以上入選校 「敬神」「神祇教育と訓練」を贈呈
 小松市稚松國民學校 金澤市味噌蔵町國民學校 金澤市石引町國民學校 金澤市新堅町國民學校
 金澤第一高等女學校 金澤女子職業學校 以上六校

○審査概要發表並擬賞申請

審査長に代り、敬神作品展覽會應募作品審査の概要を申述べ、入選者擬賞の申請を致したいと存じます。此の種の展覽會は、全國的に見ても最初の試みとも申すべきものでありまして、作品を募集致しますや、各方面より多大の關心と御協力を得、應募總點數四、一三八の多きに達した次第であります。本展覽會作品の審査に當つては、學務部長を審査長に、審査委員を夫々委嘱して審査委員會を組織し、去る六月十七日に各科目毎に審査を行ひ、更に二十日嚴密なる綜合審査を経て、最後の入選者を決定した次第であります。此の機會に作品に現はれたる傾向、審査に際しての所感等を科目別に簡単に申述べること致します。

作文。

神社、敬神に關する作品たるべき條件に鑑み、敬神の趣旨なり精神なりが、十分盛られてゐなければならぬのでありまして、然も作文は思想の表現でありますから他の科目に比して容易に之が現はさるべき筈の處、其の眼目に添

はない作品が相當に見受けられましたことは意外に思はれたのであります。然し乍ら流石に入選作品中には此の趣旨を活かし、自己の信念等を強く表現した優秀作品があつたのであります。一方俳句和歌等是一般に平凡低調で、清新澁澗さに缺けてゐた様に思はれたのであります。其の他一般的に時局に因る素材の多かつたことは當然と申さねばなりません。標語に就きましては時局に依る素材の多かつたことは作文と同様でありましたが、數に於ても質に於ても作文に比し、遙かに劣つてゐた様であり、又獨創性に乏しい傾向が見受けられたのでありまして、概して神祇に關する豫備知識が未だ不十分の様に認められたのであります。

圖畫。

圖畫は應募點數一、四三九點で各科目中最も多數を占め、著想が豊富で然も表現技術の優れたものが仲々多かつたのであります。國民學校に於て見ますに、低學年の方には純真さ溢るゝ作品が多く、又高學年及中等學校では寫生的表現が大部分を占め、兩者とも神域の森嚴さに觸れてゐると云ふ點に於て、應募の趣旨に最もよく合致したものであると云ふことが出来るのであります。一方ホスターにも優れたものがありましたことは注目に値するのであります。之を要するに圖畫に於きましては構想的なものよりも、主眼點のはつきりした表現に優秀なものが多かつたと申されるのであります。

習字。

習字に於きましては、審査の方針として氣宇が宏大であつて銜氣なく、一流一派に偏せず純真雄渾なる作品の推賞に努めたのでありまして、其の成績は極めて良好と認められ、特に國民學校に於ては用筆法、結体、布置、墨色、品位等の諸要素に於て、又技法的修練の程度に於て、他の府縣に比較して敢て遜色なきものと認められたのであり

ます。一方中等學校、青年學校に於ては男子は漢字、女子は平假名に、各々其の特色を現はしては居りましたが、聊か玉石混淆の感を免れ得なかつたのであります。僅少ではありますが、應募作品中には未熟杜撰なものがあり、奇僻に過ぎて平素の指導の不徹底さを、暴露してゐるものがありましたことは遺憾でありました。

最後に工作でありますが、これは材料の入手、運搬の關係、製作期間等の關係に依り、他の科目と比較して其の點數は餘り多くなかつたのであります。特に國民學校に在つては高學年及男子の出品が割合に少なかつた様であり、成績に就ては國民學校では著想は概して當を得て居り、相應の効果を擧げ得たものと認められるのであります。然し或る程度の指導は勿論必要であります、其の指導が程度を超へ、兒童自身の創意、純真さ、素朴さを却つて損じたものがありましたことは、將來考慮さるべきことと存するのであります。

次に、青年學校、中等學校に於ては殆んど全部が女子の手藝であつて、極めて精巧緻密な作品が多く、美術的價値に富むものがあつたのであります。但し他の科目も同様でありますが敬神と云ふことに何等精神的關連を持たない様な作品が多少ありましたことは、著想が困難であつたことに由來するものと存せられますが、注意を要すべき點と思ふのであります。

以上之を要しまするに、主催者側と致しましては今一層神祇に關する認識を深め、今後益々兒童生徒に對し、神祇教育を取入るゝ必要を痛感せられるのであります、綜合的に見て成績は極めて良好であつたと認められる次第であります。今回の審査に當りましては、本展覽會開催の趣旨に合致せざるもの、又規格に外れたものは原則として之を除外したのであります。作品全部を無記名として嚴密なる審査を行つたものでありますから、多數の應募點數から選出された入選作品は何れも優秀なものであり、推賞に値するものと認められるのであります。即ち作文四七點、標語三一點、圖畫九五點、習字四八點、工作五五點、合計二七六點を入選受賞者とし内秀位、優位八五點に對

し特に敬神賞を授賞致される様、茲に審査の概要を申述べると共に、擬賞の申請を致す次第であります。

○主催者挨拶

敬神作品展覽會授賞式を舉行するに當り、主として學校教職員並生徒兒童父兄各位に對し、一言所懐を申述べ度いと存じます。

惟ふに神祇の奉齋は、我が民族の發生と同時に發生した民族精神であり、我が國民必然の要求から發達した國民の信念であります。

従つて、神社は我が國家と須臾も離るゝことの出来ない關係を有し、常に建國の理想を顯現し、我が國體の精華を發揚して參つたのであります、神社は國家の宗祀なりと謂はるゝ所以も亦茲に存するのであります。

畏くも、皇室の御政治は歷朝敬神愛民を以て一貫せられ、國民の忠誠は亦敬神尊皇を以て終始して參つたのであります。即ち日本人の生活のあるところ必ず神社ありとも申されるのであります。

此の意味に於きまして、今般國民精神の基調とも云ふべき神祇思想に關し、昂揚の一助とも爲すべく、縣下中等學校、青年學校、國民學校より廣く神祇に關する作品を募集し、純真なる生徒兒童の心情に確固たる敬神愛國の精神を扶植せしめ、兼ねて其の作品を公開展示し、一般敬神思想の普及涵養に資せんが爲に、本展覽會を開催致しました處、學校當局者其の他より多大の協力を得て、多數の優秀作品の應募を見、嚴密なる審査の結果入選者を決定、其の作品は既に會場に展觀して所期の成果を擧げつゝあるのであります、茲に其の授賞式を舉行するに至りましたことは洵に欣快とするところであります。

今や、舉國一致天業恢弘に奉仕し、以て大東亞戰爭完遂に邁進すべきの秋、鞏固なる精神力の前には、物質のみに

依存する備への如何に脆弱なるものかを深く省み、一は學校教育の實際に、一は家庭教育の日常に、夫々立場こそ異なれ、要するに皇國民の鍊成、特に非常時の負荷に堪へ得る素地の養成に一段と意を用ひられ、以て一層國民精神の伸張を計り、益々惟神大道の闡明に寄與せられんことを切に希望する次第であります。

二、座談會

授賞式に引續いて座談會を開催し、入選に至る迄の心境(入選生徒兒童)、指導上の苦心、本展覽會の一般敬神思想に及ぼしたる影響(教職員父兄等)等に關し夫々感想、意見の開陳あつて得る所多大なるものがあつた。

即ち右座談會の内容を要約するならば、生徒兒童が作品の應募に際しては何れも國體觀念に立脚し、日本は神國である云ふ自覺を根本として、齊しく純正無雜なる心境を以て制作に當つたことを卒直に述べ、其の心構へが先決問題であると云ふ考へから、中には先づ神社巡拜を行ひ或は又數日間早曉に社頭の森嚴な雰圍氣に觸れて、然る後着手したことを申述べて居たものもあつた。

一方作品の指導に當つた教職員父兄側に於ては、展覽會開催の趣旨に感銘し、何れも非常な熱意を以て積極的に之を指導し、科目に依つては材料入手難の折柄、生徒兒童子弟と共に種々苦心したことを述懐せられ、又大東亞戰爭完遂上日本精神が根幹をなすべきものとの見地より、神祇に關する教育は最も重要なものであり、國民の教育は先づ敬神より出發すべきものでなければならぬと、強く主張せられた學校長もあつた。之を要するに本展覽會は敬神思想涵養上有效適切なるのみならず、特に生徒兒童に對する神祇教育に資する所絶大なるものがあつたことを切實に感ぜらるのである。

〇入選作品

(作文は秀位、標語は秀位、優位を登載す
習字、圖畫、工作の秀位は巻頭寫眞を参照)

一、作文

神國日本

金澤第二中學校 第五學年 橋

進

日本は神の國である。

宇内に冠絶する美しい自然を有する我が國民は、この美しい自然を觀賞するだけでなく敬虔な心をもつて仰視して來た。蒼穹に燦たる芙蓉八朶の靈峯を仰ぎ見る時、誰かその偉大さ清淨さを讚美しない者があらうか。其所に「神國日本」の麗はしい觀念が根源するのである。親房卿は「大日本は神國なり」と千古の大文字を残されてゐる。戰國争亂の世に際しても生々脈々として傳へ來つた日本精神——惟神の精神はまつろふ、くにたみの姿を代表して吉野朝盡忠の群臣をして神國日本の神隨に觸れしめ「我が國のみ、このことあり」と斷ぜしめたのである。この神に對する崇敬は祖先崇敬の偉大な國民性と共に神社崇拜となつて現はれたのである。

而して古來祭祀の中心となつたのが我が神社である。神社は我が惟神の道の表現であり、根本反始の誠を致す聖域である。ここに我が國の敬神崇祖の根本があり、祭政教の一致が存するのである。一昨年の春、僕は母と伊勢神宮に詣でた。

やはらかな日影が靜かに緑の中に燃えてゐた。緑は深い。森嚴な參道を進む參詣者の、敬虔な足音も五十鈴の清流に溶け込んでたゞ神々しさに満ちてゐた。鬱蒼たる森林は涯遠く擴つて、神代にまで續いてゐるかと思はれ、一本

一草にも皆太古のほひがしみてゐるやうであつた。

千木高く緑樹の上に聳えてゐる莊嚴さに「我が國は神國なり」の感激が強い律動を以て血潮に躍動し始めた。その清淨の美は古人の流した、たゞ有難さの涙をそのまゝ我々に傳へて頬を濡すのである。日本の國民である以上すめろぎの神の蒼生——御民である以上。

夕日うつくと共に感激にふるふる足取で私はこゝを立ち去つた。かゝる感激は私一人ではなく、恐らく全日本國民が齊しく覺える感激であらう。神國日本のこの大御代に生を享けた喜びは私をして「御民われ生ける驗あり」と叫ばずにはおかなかつたのである。

萬葉の歌人は「すめろぎは神にしませば」と歡喜に咽び、天皇は現つ神であり、天皇の治世は神世であると信じ來つた。そしてみことかしくみまつろふくにたみは、又神の御民——神の子孫として現人神であらせられる。天皇に仕へ奉つてゐるのである。

海行かば水漬く屍山行かば草むす屍

大君の邊にこそ死なめ顧みはせじ

の言立ても雄々しく

山はさけ海はあせなむ世なりとも

君にふた心我あらめやも

と明き淨き追き心を以て大君にまつろふこの神々しくも清々しい神ながらの道に一貫された日本の歴史は寔に偉大である。

神の國には必ず天佑神助がある。さも當然な事である。元寇のあの神風は言ふに及ばず、今次の聖戦に幾多の神助

あるを聞く。曉の爆撃行に荒鷺達が徹宵の勤務員と、愛機を神に祀つて敬虔な祈りを捧げてゐる情景を耳にしたことがある。自己の生還は毫も期せず、ひたすらに愛機の十分なる活動と武動とを祈るのである。何といふ崇高な精神であらう。飛行機の故障は豫測し難い。だがわが愛機は已に神の機である。神の機に天佑神助のあるは不思議はない。神の機の羽搏くところハワイ海戦マレー沖に武動は燦たるのである。聖戦下の神國日本が幾多の天佑神助のもとに八紘一字の理想達成に邁進する。何物が之を拒み得ようか。

戦勝の日、氏神の前に額く神の御民の眞摯な姿こそ常磐に彌榮えゆく神國日本の本然の姿なのである。

末の世の末まで我が國は

よろづの國にすぐれたる國

神様を敬ひませう

金澤市新塲町國民學校 第六學年

泉

千

鶴

子

天照大神様。我が日本國民が、大昔から敬ひ奉る神様であらせられます。日の本は、神勅によつてをさまつたので

す。さうして、今日まで大神のみことのまゝに神の御子代々のみかどがしろしめされてゐます。このありがたい國に生をうけたのは、何といふしあはせな私でせう。

國初以來三千年の歴史を、諸外國に輝かす事のできるのも、尊い神様のお力によることを忘れてはなりません。これを思ふと、何かしらそぼくなよろこびで、一ぱいになります。昔から現在まで、神様のお助けになつた事がたくさ

んあります。古事記によれば、神武天皇が、わる者を御征伐になつた時、急に天地が暗くなつて、大粒のへうがすさまじい音を立て、降り出し、どこからともなく金のとびが来て、天皇のお弓の先にとまつて、わるものゝ目をくらました。元の大軍が攻めて来た際にも、近く大東亞戦争には、眞珠灣攻撃の時、その空だけが晴れてゐたといふうはさもきゝました。この外尊い神様のみわざによる事がまだまだ多くあるのです。これらは我が國が有難い神國であるためです。このやうに立派なお國にして下さつた、天照大御神をお祀り申してあるお社は、伊勢の 皇大神宮で、一生に一度は必ずお参りする事として、あがめ奉つて居ります。さうして五十鈴川の水は、いつもにこらず、へらず、これ又一つの不思議な神のめぐみでありませう。

久方の天にのぼれるこゝちして

いすゞの宮にまゐるけふかな

それから、わるものを平定なされて、日本の國で、初めて 天皇の御位におつきになつた 神武天皇をお祀りしてある橿原神宮、どんどんと橿原の大だいこと共に二千六百年の元旦の朝は、しづしづと明けはなれたのであります。さうしてどこのお宮も續々と、参拜者がたえません。お宮の境内はちり一つおちず、くまなくはき清められていと神々しいです。

私達も、神様を敬つて、神社のおさうちをきれいにいたします。

これらは我が日本民族の敬神の現れであります。

日本人はみんな神様を敬みます。大和魂、富士、櫻、日本刀、この立派な美しさ、神代以來今日まで一統のものです。

敷島の大和心を人間はば

朝日ににほふ山櫻花

美しく、け高い皇國の姿。

私達日本國民は、深く神様を敬つて、ますます立派な日本を築き上げませう。

ワタクシノウチノカミサマ

金澤市味喰蔵町國民學校 第一學年

ソダニトミコ

ソヨソヨトスズシイカゼガツイテキマス。オニハデオカホヲアラツテキルト、バチバチトカシハデノオトガキコエテキマシタ。「ソウダオトウサマダ。」ワタクシハイソイデオチャノマヘイツテ、オトウサマト一シヨニカミサマニ、アサノゴアイサツヲマウシマシタ。

ソシテ「ソヨイニツボンノヘイタイサンアリガタウゴザイマス。ワタクシモウントソヨイコドモニナリマス。オトウトトケンクワナドイタシマセン。」トイツテオマキリシマシタ。

アサヒノサシテキルオハンダイデ、ユツクリアサゴハンライイタダキマシタ。オトウサマが「ウチノカミサマハ、オチイサマガ、ハジメテオマツリニナツタノデ、マンナカニアマテラスオホミカミサマ、右ニテンジンサマ、左ニコンビラサマガ、オマツリシテアツテ、コンビラサマハ、ムカシオチイサマガ、オホサカマデイラツシャルノニ、キシヤガナクテ、オフネノツテイカナケレバナラナカツタノデイツモコノフナカミサマノ、コンビラサマニオマキリシテ、オデカケニナツタノデシタヨ。」トオツシヤイマシタ。

ワタクシモ、ニツボンノヘイタイサンガグンカンニオノリニナツテモ、アブナクナイヤウニ、マイニチ一ショウケツメイニ、オイノリシテキマス。マイ月二十五日ニナルト、オカアサマハ、オテンジンサマニ、オミキヲオソナヘニナリワタクシタチガヨクベンキヤウシテ、日本ノリツバナコドモニルヤウニオマキリシテイラツシヤイマス。

ミンナデ、オイシイオユウゴハンヲイタダイテ、シヅカナヨルニナルト、カミサマトホトケサマニ「ケフモ一日アリガタウゴザイマシタ。」トゴアイサツヲシテオヤスマイタシマス。

神を敬ふ

石川郡松任国民学校 第六學年 安 吉 英 一

僕は今年の春、靖國神社のお父さんに御會ひする爲に、始めて東京へ行きました。上野驛で汽車を降りた。僕等は限らない喜びで胸を躍らせながら、先づ第一に宮城を拜しました。緑濃き大内山の森、二重橋、僕等は唯日本人に生れた嬉しさで一ぱいである。

僕は心から 天皇陛下の萬歳を祈り、日本の國の發展を祈りました。

次に九段の靖國神社へ参拜に行きました。尊い菊花の御紋章の御社の奥深く神様として祭られてゐらつしやるお父さんはおそれ多くも 天皇陛下の御親拜を戴きその光榮は之に過ぎるものではありません。

山西の山野で立派に散られたお父さんの事を思ふと、僕は始めの中はやはりとても淋しくてならなかつた。併し今日このお父さんの名譽を、この光榮を思ひ、心から満足してをられるお父さんの氣持を考へると、僕の心は急に晴々

としてきた、

僕のお父さんは幸福な人であつた。僕もお父さんにまけない幸福な子供だ。

「英一大きくなつたな。」

と、どこかすぐそこで、お父さんの面影が僕を呼んで居られる様な氣がしてならない。僕は思はず

「お父さん安心して下さい。僕は折角勉強して、必ず御國のお役に立つ立派な人になつて見せます」と、はつきりと心の中で御返事して誓ひました。

僕は、家の神棚にも毎日お父さんが居られて僕の家を守つて下さると、考へる様になつたので、神様に對しての僕の氣持は大へんに親しみを感ずる様になつた。神は僕等の親であり又祖先である。肇國以來二千六百有餘年、我々大和民族の祖先は立派に、身命をなげうつて日本を守つて來て下さつたのだ。さうしてそれらの人々の魂が神様としてまつられてあるのだ。

神様の御守りなしに決して國は榮えない。神を敬はない國はきつと亡びる。大日本は神國なり——とは今から六百年餘り前に北畠親房公が神皇正統記に書き現はしてある。

僕は常に神に祈りながら、お父さんの面影をしのびながら、益々心身を鍛錬して——御國の爲に働くことの出来る強健有爲な日本人になります。

二、標 語 (秀位、優位)

中 等 學 校

秀 位 響くかしは手伸び行く日本

小松高等女學校 一年 湯 川 初 枝

優位 敬神の家あつまりて國榮ゆ
清い心で正しい拜禮
曉天參拜、日課の始め

國民學校

秀位 神様をおがむ心に曇りなし
神拜むこの手で築く大東亞
ミンナカミサマノオカゲテス
朝に參拜、夕に感謝

優位 かしは手にかんしやをこめていのりませう
かはい、坊やのかしは手がやがて世界に響くのだ
かしはでに心揃へよ奉戴日
大東亞神の光りに明けそめる
神前にぬかづく心の赤襟

金澤第一高等女學校 四年 上野 倭子
金澤女子職業學校 四年 北川 照子
小松高等女學校 四年 岩倉 藤子

河北郡宇ノ氣國民學校 高一 安下 正則
金澤市高岡町國民學校 高一 木越 悦子
小松市苗代國民學校 初一 武田 鉄重
金澤市新野町國民學校 初五 北島 豊子
金澤市新野町國民學校 初三 地代 悦子
石川郡野々市國民學校 高二 森 幸定
鹿島郡金丸國民學校 高一 三輪 太郎
七尾市西湊國民學校 初六 上田 タニエ
能美郡女原國民學校 高二 梶 清一郎

〇入選者名簿 附參考出品目錄

一、入選者名簿

習字科

秀位	七尾高等女學校	第四學年	飯田 則子
優位	金澤第一高等女學校	第五學年	津田 外喜子
同	同	第三學年	中島 美和
同	羽咋高等女學校	第四學年	西井 秀子
同	藤花高等女學校	第五學年	根河 外喜子
良位	北陸女學校	第二學年	宇都宮 光子
同	金澤第一高等女學校	第五學年	明石 ゆき子
同	同	同	五藤 多喜子
同	同	同	辨田 秀子
同	同	同	新保 佐喜子
同	金城高等女學校	第四學年	木戸 利枝
同	金澤女子職業學校	專攻科	松村 幸子
同	羽咋高等女學校	第四學年	湯尾 哲子
同	同	同	坂口 能子
同	同	同	山本 綾子
同	金澤實科高等女學校	第二學年	同

青年學校

良位	松任町立臨工青年學校	本科三學年	谷村 喜矩雄
同	同	第四學年	長田 外志男
同	同	女子第一學年	幸森 芳子
秀位	金澤市新野町國民學校	第六學年	中 演 明
同	同	第二學年	小西 明子
同	同	第五學年	田井 定和子
同	同	第三學年	木尾 隆史
優位	金澤市新野町國民學校	第二學年	坂田 銳二
同	同	第一學年	泉 久佳
同	同	同	美 谷 洋
同	同	同	荒木 美咲
同	同	同	松井 照子
同	同	同	小林 和子
良位	同	同	石崎 孝子
同	同	同	太田 三信

露光量違いの為重複撮影

一、國寶神皇正統記	寫真本	四冊	國幣中社	白山比咩神社
一、大 旗	「大日本者神國也」	一	同	
一、傳 後鳥羽天皇御作太刀		一	國幣小社	菅生石部神社
一、繪 馬	慶長十年ノ銘アルモノ 前田利家公御着用ノモノ	一	同	
一、鏡		一	別格官幣社	尾山神社
一、有栖川宮威仁親王妃慰子殿 下御染筆		一	同	
一、源義經大野湊神社通過ノ圖		一	縣 社	江沼神社
一、旗	敬神崇祖ノ文字アルモノ 神徳如天ノ文字アルモノ	二	同	
一、辨慶釣鐘額		一	同	
一、屏 風	俱利伽羅山源平合戦ノ圖	一	同	
一、久延比古神圖	平田篤胤ノ畫費アルモノ	一	同	
一、書 籍	能登國神異例	一	同	
一、紙 芝居		一	同	
一、額	式年遷宮御模様	一	同	
一、書 籍	神祇關係書	一	同	
一、官國幣社御印帖		三	同	
一、書 籍	神祇關係書	一	同	
一、神棚及家庭祭祀用祭器具	神祇關係書	五	同	

露光量違いの為重複撮影



昭和十七年九月四日印刷
昭和十七年九月十日發行

(非賣品)

編輯兼 石川縣廳社寺兵事課内
發行人 守部 伍

印刷者(中石四) 橋本 彌三郎

印刷所 金澤市大手町二十八番地
橋本 文堂
電話 二三七六番

發行所 石川縣學務部社寺兵事課

終

